

緩和医療・在宅医療を支援する薬剤師

神奈川県大和市・雙葉薬局薬局長 加藤 久幸

過去・現在・未来

今回から3回に分けて、薬剤師が緩和医療・在宅医療に今までどのように関わってきたのか、また現在はどのようにして仕事をしているのか、そしてこれから薬剤師は、このような分野にどのように関与しようとしているのかを、連載することになりました。

薬学生の皆さんが、薬学を履修する中で思い描く理想と現実には、乖離するところもあれば、想像以上に進展しているところがあるのも事実です。現在、医療費を削減するため、また多様な療養生活を求める国民のニーズが、在宅医療を推し進め、緩和医療を進めています。そのニーズに応えようと、医師も看護師も医療の最前線で努力しています。在宅で行われる医療が、決して病棟で行われる医療と遜色があるわけではありません。

▽ 1 在宅や緩和で行われる医療に薬物は関与していないのでしょうか？ 多くの場合、医薬品は使用されています。だからこそ、医師や看護師から薬剤師への熱い要望はやむことがないのです。この緩和医療や在宅医療の分野こそ、薬学生の皆さんが思い描く世界と、乖離するところと期待されている部分が入り交じった、そして薬剤師としてやりがいのある、達成感のある分野でもあります。

この期待される部分と希望との乖離する部分を、海外の事例を紹介しつつ紹介してみたいと思います。

時代の変遷受け在宅進出

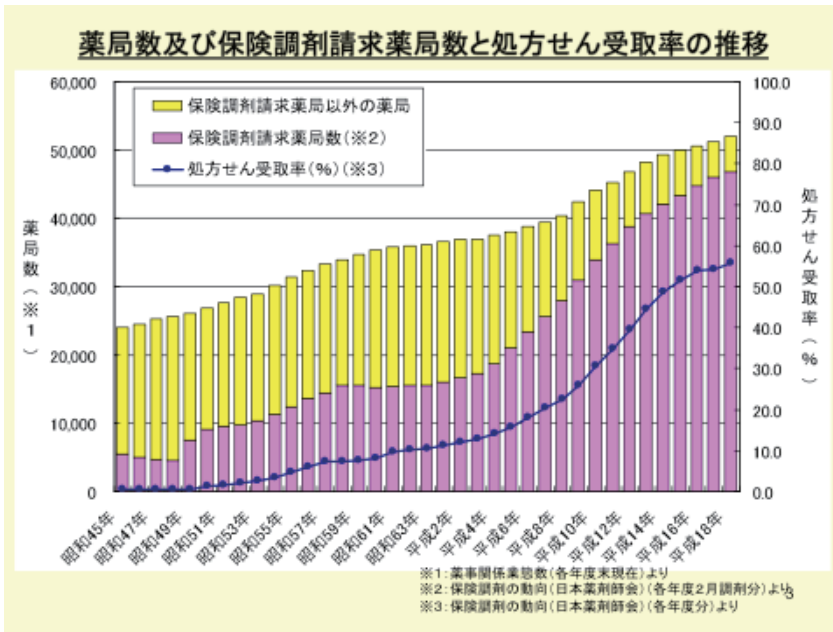
江戸時代から明治、大正、昭和と、自宅で病に伏せた人を、医師は往診という形で診察、そして治療を行っていました。そこで行われる医療は、医師が1人で出向き、あるいは看護師と2人で出向き診断をして、後刻、家族に薬を医療機関に取りに来させることが多かったと思います。このような時代の医療は、現在と比較して必ずしも高

いレベルで薬物治療が行われていたわけではなく、主にケア（癒し）を中心とした治療が行われていたといえます。

当時は、家族主義で病に伏せた人や高齢者の面倒を、家族全員で見る社会習慣が強かった時代でもあります。このような時代、薬剤師はむしろ製薬を担う職種と認識され、薬物

治療に関わるのは多くの場合、病院薬剤師による塩酸モルヒネ注射剤の調整や、膀胱洗浄液の製剤などの製剤業務が主体であったことを考えると、緩和医療や在宅医療への直接的な関わりなど、少なかったともいえるでしょう。

昭和60年代になり、「医薬分業」の進展を



見るようになりました。そのため、開業医が往診する求めに応じることから、その処方せんを薬局に勤務する薬剤師が応需せざるを得ず、内服や外用などを調剤する程度に、細々と業務を行う程度であったと思われます。しかしながら、そこでは患者と直接向き合って医薬品の管理や服薬指導に臨む、あるいは薬物治療の処方設計に深く関わるといったケースは、まだみられません。

医・薬物治療の進歩が後押し

ところが、この頃から一部の医師の中には、往診や在宅医療の重要性を認識し、実践していたようです。そこに看護師が関わる必要性は見出されていたものの、薬剤師の必要性は医療関係者からも患者側からも聞こえていなかったといえるでしょう。そこには、医療機関における入院治療時にしかできない薬物治療の限界が存在していたこともあるのかもしれませんが、また、病棟における薬剤師の活動も、ごく一部の大学病院でしか行われていなかったこともあり、薬剤師の職能や能力が医療職種から理解を得られていなかったことも原因かもしれません。

しかし、新しい医薬品が世の中に出るようになり、入院施設がなければできなかったような薬物治療や緩和医療にめざましい進展を遂げてくると、必ずしも入院を必要としない薬物治療が行われるようになってきました。例えば高カロリー輸液などは、それまで基本液に数種類のビタミン剤やブドウ糖などをそのつど混注してから使用していましたが、ダブルパッケージやトリプルパッケージなどが開発され、混注の必要性が少なくなってきました。また、鼻や口に管を通して薬剤を服用させるために、薬剤師が錠剤やカプセルを粉砕したりしていたものが、混濁により簡便に効果を落とすことなく服用させる方法が開発されました。

さらには、日本薬剤師会が平成9年に「薬局のグランドデザイン」を発表し、薬局にクリーンベンチの必要性も提唱していました。既にこのころから、在宅でも輸液による治療が少しずつ行われるようになり、院外処方せんによる調剤は、外来の患者さんの調剤だけではなく、在宅で治療している患者さんの調剤や服薬指導が求められるようになってきたことがうかがえます。

Yakugaku Seminar 学校法人 医学アカデミー

薬学ゼミナール

平均合格率 **95.7%**

インターネットで国試対策!! 国試までにキミを変える! 薬ゼミのカタチ!
薬ゼミのとおきの講義がインターネットで受講可能

薬ゼミ e-School

薬ゼミのどこでもラーニング STEP1 好評配信中!

薬ゼミ e-School は、こんな方に最適...

- 近くに薬ゼミがない
- 薬局実習中に少しでも勉強したい
- 現役なので薬ゼミに通えない
- 早い段階から国試の準備をしたい
- 反復して学習したい
- 好きな時間に学習したい
- 働きながら国試合格を目指したい
- 卒業試験・定期試験が心配だ
- 苦手科目を克服したい

「薬ゼミ」には、開校30年以上の伝統と全国No.1の実績があります。特記すべきことは、近年の受講者数が2000名を超えているにもかかわらず、高合格率を維持していることです。私たち「薬ゼミ」の教室にはあなたを薬剤師国家試験合格へと導くさまざまなサポートがあります。

フリーダイヤル 0120-77-8903
 ホームページ <http://www.yakuzemi.ac.jp>
 Eメール info@yakuzemi.ac.jp

- 川越教室
- 渋谷教室
- お茶の水教室
- 池袋教室
- 八王子教室
- 名古屋教室
- 大阪教室
- 神戸教室
- 福岡教室

CBT 対策なら 薬ゼミの参考書

コアカリ・マスター 10冊合計8903問!! 好評発売中

・実践問題 (CBT形式) で、薬学共用試験対策
 ・薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿った構成
 ・基本問題 (一問一答形式) で、正しい知識を確認

vol.1	vol.2	vol.3
1 物理系薬学	4 薬と疾病Ⅰ	7 ヒューマニズム/イントロダクション
2 科学系薬学	5 薬と疾病Ⅱ	8 健康と環境
3 生物系薬学	6 薬と疾病Ⅲ	9 薬学と社会
		10 実務実習事前学習

コアカリ重点ポイント集 『コアカリ・マスター』と併用で学力UP!

・薬学共用試験 (CBT) 対策の決定版
 ・薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿った構成
 ・豊富な図表と必要な情報をコンパクトに掲載
 ・チェックシート対応勉強しやすい2色刷

vol.1	vol.2	vol.3
1 物理系薬学	4 薬と疾病Ⅰ	7 ヒューマニズム/イントロダクション
2 科学系薬学	5 薬と疾病Ⅱ	8 健康と環境
3 生物系薬学	6 薬と疾病Ⅲ	9 薬学と社会
		10 実務実習事前学習

インターネット 特別割引実施中